

東日本大震災・原発被害復興支援基金ニュース

No.3 企業組合とちぎ労働福祉事業団

2011年8月22日発行

いわき市へのボランティア派遣活動も、次の段階に移る予定です。

社協が運営するいわき市平の災害ボランティアセンターも8月末で規模を縮小し、県外からのボランティアの受け入れを終了する様子です。

がれきの片付け、泥上げなどを中心とした災害ボランティアの取り組みを市民工房さん、県生協連さんと取り組んできて、事業団からは延べ7回、10名がボランティア活動に参加しました。

今後は、いわき市内の仮設住宅に移られた皆さんの生活支援、コミュニティづくりへの支援に活動内容をシフトする予定です。

詳しくは、8月24日に市民工房の陣内理事長、安藤事務局長と現地を訪問し、いわきNPOセンターや、うつくしまNPOネットワークの皆さんと打合せして、今後の進め方を決める予定にしています。

また、いわき市久ノ浜地区など、原発に近い場所にあり、災害復旧が進んでいない地区もまだあるようなので、社協以外のルートで災害ボランティア活動を継続できないか、検討しています。

引き続き、宇都宮まちづくり市民工房さんに基金を託して支援活動を行っています。

最近の様子は、以下の通りです。

1) 栃木県内の避難所からアパート等に転居される方への物資の支援

県内の避難所も閉鎖する方向で進んでおり、福島に戻らず、県内でアパート等を借りて生活される皆さんへの生活物資の支援を行っています。

テレビ、本棚、カラーボックス、食器、タオル、かけ布団など、一般の方から寄付された生活物資を希望する方に差し上げる取り組みをしています。ついこの間、夏用の衣類等を手配

基金の収支状況（8月22日現在）

<収入額>

個人寄付額	56,000円
法人上乘せ額	56,000円

合計	112,000円
----	----------

<支出額>

外部への寄付	86,000円
諸経費	990円

収支残高	25,010円
------	---------

したばかりなのですが、早くも冬用のブランケットやズボンの寄贈品の受付など、冬支度が始まっているとのことでした。

2) 避難者の方々との交流会

生活応援物資のお届け会を実施してきましたが、これからは交流会を活動の中心に据え、同時に生活応援物資のお届けも行う予定です。

行き場のない方々への支援をどうするか、民間借り上げ住宅に分散して入居した人たちへの情報提供等の支援をどうするかなど、悩みは尽きないとのことでした。

この夏、亘理町から南相馬市まで国道6号線を通り、飯舘村を経由して伊達市富成地区、福島市大波地区・渡利地区を回ってきました。国道間際まで漁船が流されたまま放置されており、塩害のため田畑は耕作されず草ぼうぼうの状態でした。除染が必要とされる各地区は、原発から数十キロも離れた山間の自然豊かな集落が多く、なぜこんな場所が汚染されなければならなかったのか、くやしい思いがしました（田中）。